

冬至を目前にして、いよいよ本格的な冬の訪れを感じさせる季節になってきました。寒さ対策を万全にして、元気に新年を迎えたいですね。現在会員登録数2,863人さま。次号は1月22日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 100

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品が出版されました  
当財団主催「第34回 日産 童話と絵本のグランプリ」(平成29年度実施)の大賞2作品が、BL出版より出版されました。

『ぶうぶうママ』小路智子／作 童話部門大賞作品

はらだゆうこ／絵 (第14回絵本部門優秀賞受賞者)

『こぐまのアーリーとあかいぼうし』わだあい／作・絵 絵本部門大賞作品  
詳細、表紙写真はこちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#34shuppan](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#34shuppan)

● 年末年始休業日のお知らせ

当財団の業務は、12月28日(金)から1月4日(金)まで休業とさせていただきます。ご了解ください。

通常の業務日は、火曜日～土曜日午前9時～午後5時30分

休業日は、毎週日曜日・月曜日、祝休日、年末年始ほかとなっています。

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■-----■  
【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Satoko's Talk

\*\*\*\*\*

『変化球男子』M・G・ヘネシー/作 杉田七重/訳 鈴木出版 2018年10月  
対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：12歳のシェーンはピッチャーとして活躍し、ジョシュと親友。しかし、シェーンの体は女子で、心は男子だということは家族しか知らない秘密だった。12歳から男性ホルモン療法を行うのに、両親の同意が必要だったが、離れて暮らす父はシェーンのことを理解できない。また、学校ではシェーンが転校前は女子として通学していたことがSNSで暴露され、級友に「ヘンタイ」と言われ、親友ともぎこちなくなる。

S：読者は最初、「ぼく」と書かれたシェーンの視点で作品を読み始めるので、「ぼく」を男子だと思っています。ところが、離婚した父が「男の子みたい」とフィアンセに紹介していたのを、シェーンが「みたいじゃなくて、男だ！」と言ったところで、トランスジェンダーの知識のある読者はシェーンの性を理解し、知識のない読者は、次の章のシェーンが3歳で自分の体に違和感を覚えたというところで、シェーンの状況を理解します。この導入はうまいと思いました。

Y：親友のジョシュに、シェーンが大事な試合に出場しないで父親に会いに行くところ、読者はシェーンが秘密を抱えていることを知りますが、それがホルモン療法の承諾を得るためであったことを知って、シェーンがいかに男子の体になりたいと渴望しているかを知ります。

S：ところが、父親はあと少し待ったら、気が変わって、女の子として生きるかもしれないという思いを捨てられません。

Y：離れて暮らしていて、シェーンの苦しみを理解できていない父親が、ホルモン療法を受けることによって、ひげが生えたり、妊娠できなくなったりすることを心配する気持ちは、12歳ゆえにわからないでもありません。

S：それに対してシェーンが「ぼくは自分じゃないだれかになろうとしているわけじゃない。ずっと昔からこうだった。」といった言葉が心に響きました。

Y：シェーンの場合は、助産師の母親がシェーンの状況を受け止め、カウンセリングにも通ってしっかり支えている点が深く印象に残りました。

S：そのカウンセリングで出会ったトランスジェンダーのアレハンドラも自分の体験を語りながら、シェーンの悩みに寄り添ってくれます。トランスジェンダーの人たちの支援をしている作者ならではの作品だと思いました。作品には、シェーンが描いている宇宙探検の長編マンガのコマが物語の所々に挿入されていて、マンガの内容がその時の気持ちや状況と関連しているようで、深読みできておもしろかったです。

Y：最後は野球がシェーンを救います。多様な性のありようを考える作品としてこの本が日本で翻訳されたことをうれしく思います。

\* 今回のゲストは当財団特別専門員 小松聡子さん（S）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第40回「猫の事務所」

「政治」と「無邪気」

前回の「二人の役人」(当メルマガ NO.99)の記事にもタイトルがあげられていた「寓話 猫の事務所……ある官衙に関する幻想……」の「官衙」というのは官庁のことで、これも、役所や役人をめぐる物語です。つぎが書き出し。

〈轻便鉄道の停車場のちかくに、猫の第六事務所がありました。ここは主に、猫の歴史と地理をしらべるところでした。

書記はみな、短い黒の繻子の服を着て、それに大へんみんなに尊敬されましたから、何かの都合で書記をやめるものがあると、そこらの若い猫は、どれもこれも、みんなそのあとへ入りたがってばたばたしました。〉

現在の一番書記は白猫、二番書記は虎猫、三番書記は三毛猫、四番書記は竈猫です。

竈猫は、夜、かまどに入って眠るので、いつも煤で体が黒いのですが、それにしても、どうして、こんなに、きらわれ、いじめられるのか。安藤宏は、「この事務所では、何せ事務長が黒猫なものですから、このかま猫も、あたり前ならいくら勉強ができて、とても書記なんかになれないはずのを、四十人の中からえらびだされたのです。」という一言に注目します(「寓話 猫の事務所」2003年)。そして、「黒猫もかま猫も猫社会にあつては差別されるマイノリティ」だと考えます。そうすると、これは、わざわざ竈猫を採用し、彼をかばいつづけた黒猫が、やがて裏切られた気もちになる物語にも見えてきます。安藤は、竈猫は猫社会や事務所の「政治的な力関係にあまりにも無自覚」だともいうのです。たしかに、同僚たちのいじめに、ただ泣くだけの竈猫は、ずいぶん無邪気なのかもしれません。おしまいには、突然、獅子が登場して、大きなしっかりした声で「お前たちは何をしているか。」とって、事務所の廃止を命じます。

物語に、1926年に花巻の稗貫郡役所が閉鎖されたことを重ねるのは、米地文夫です(「宮沢賢治「猫の事務所」と郡役所廃止」2007年)。「猫の事務所」は、1926年3月発行の雑誌『月曜』に掲載されました。数少ない、賢治の生前に発表された童話の一つです。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。)

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 100

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします (18) おはなしについて2

質問：昔話を語る時、書かれている言葉をそのまま覚える必要がありますか。

(前回のつづきです)

そのまま覚えて語ったら耳に心地よくておもしろいテキストを選んで覚え、語るという経験をたくさん積み、多くの人のおはなしを聞き、昔話に関わる図書や雑誌を読んでいると、だんだん「昔話とは何か」についてのイメージができてくるようになります。とはいっても、昔話の世界は奥が深いので知れば知るほど、わからないこともたくさん出てきます。

書かれている言葉をそのまま語らないという場合には、いくつかの段階があります。まず、最初に、ほぼこのまま覚えて語ることができるにもかかわらず、一部の接続詞(「そして」「しかし」など)や助詞(「は」「が」など)や

言い回しなど、どうしても言いにくい、リズムがつかみにくい場合があります。

まずは、接続詞にしても助詞にしても、書いた人は、そのおはなしの流れやテーマにぴったり合うと思ってそれらの言葉を選んでいるはずで、そこで、なぜ、その言葉が選ばれたのかを考えてみる必要があります。同時に、同じ話が複数の再話者によって再話されていたり、翻訳されていたりする場合は、まず、それらを比べてみて、もともと自分が選んだテキストの変えたいと思っている部分の意図を探ることもしてみます。

それでも、やはり、落ち着かない、どうしても言いにくい、全体のおはなしの流れとして、納得できないということがあれば、変更すべきだと思います。どのように変更すべきかについては、接続詞を変えることによって、おはなしの中で続くストーリーがどんな意味を持つのか、助詞を変えることによって、その部分が作品全体の中でどういう意味を持つのかなどを、考えて納得できる言葉にすることが必要です。そして、他の人にも聞いてもらって、引っかけられないか、自然に聞こえるかどうかを確かめます。

\* 次号は「その 11 さまざまなご質問にお答えします (19)」の予定です。引き続き同じ質問について考えます。ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*  
《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*  
兵庫県立美術館で12月24日まで開催されている巡回展「サヴィニャック パリにかけたポスターの魔法」に行ってきました。レイモン・サヴィニャック (1907-2002) はフランスを代表するポスター作家です。41歳の時に「牛乳石鹸モンサヴォン」のポスターで人気作家となり、それ以来、食品、糸、電化製品、旅行、頭痛薬、タイヤなど、いろいろな商品の広告ポスターを手がけています。

この展覧会では、ポスター、原画、スケッチブックなど約200点が、第1章は「ポスターの魔術師サヴィニャックが誕生するまで」、第2章は「10の項目から見つめるサヴィニャックのポスター」として、「動物たち」「オトコの人、オンナの人」「製品に命を吹き込む」などのモチーフ別に展示されています。

マットレスからバネで飛び出したヒツジが描かれている「トレカ：ウールとスプリングのマットレス」や、男の人が足元に置いたペリエを指さしながら、瓶から飛び出した炭酸水を大きな口で飲んでいる「ペリエ：プシュッと音がする水…」、ゾウが子どもに鼻のシャワーを浴びせている衛生キャンペーンの「ドップ：清潔な子どもの日」のポスターなど、おもしろい作品がいっぱいでした。サントリーや森永など日本の企業のものもありました。

おしゃれでかわいいユーモアのある絵は、明るい色がきれいです。青白赤のトリコロールカラーのものもたくさんありました。シンプルな絵の中で、何を宣伝していて、おすすめポイントがどこなのか、誰でも見ればわかります。短いキャッチフレーズと絵で表現されていて、言葉遊びやダジャレのようになっているものや、シュールなものもあります。一枚の絵の中に物語を感じて、絵本のような感じでした。(K)

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介  
■ ----- ■

● 企画展「東君平「白と黒の世界」」

会 場：香美市立やなせたかし記念館 詩とメルヘン絵本館

会 期：開催中～平成31年2月4日（月）午前9時30分～午後5時

休館日：火曜日（12月25日、1月1日は開館） 入館料：有料

主 催：（公財）やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団

● 資料展示「ふしぎの描き方ーあまんきみこ&富安陽子の世界ー」

日本を代表する2人の児童文学作家にはふしぎな世界を描くという共通点がありますが、その描き方は少し違います。「ふしぎ」をテーマに作品世界をたどります。

会 期：開催中～12月28日（金） 休館日あり

会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナー （東大阪市荒本）

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

協 力：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■  
【4】プレゼント  
■ ----- ■

100号を記念して、財団のロゴマーク（牧神・安野光雅デザイン）が入ったコットンバック（A4サイズ）を10名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.100 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。

締切は平成31年1月10日（木）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

新体制のもと荒波の中を船出した8年前の9月に第1号を発行して、今回でちょうど第100号。多くの方々のご支援をいただきつつ歩んでまいりました。その方々の思いに応えられるように、改めて頑張らねばと思っております。みなさまにとりまして、来年はもっと良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。（T A）

-----  
みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----  
発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
-----  
-----